

第 32 回地層処分研究開発・評価委員会における事前評価（第 1 回）の結果について

第 3 期中長期目標期間(平成 27 年度～令和 3 年度)の最終年度に際しての研究開発課題評価として、第 4 期中長期目標期間における基本方針案について、①研究開発課題の選定の妥当性、②方向性・目的・目標等の妥当性の観点から、各委員よりいただいた事前評価（第 1 回）の結果は、以下のとおりです。

1. 事前評価（第 1 回）の評価結果：委員総数 9 名のうち、妥当（8 人）、要改善（0 人）

※Webb Erik 氏については、個別に意見聴取予定

2. 各委員のご意見（集約）

(1) 研究開発課題の選定の妥当性（効果・効用（アウトカム）の観点を含む）

- 第 3 期の成果（見込み）に基づき、国の方針や地元自治体との約束等に基づいたフレームの中での研究開発課題となっており、その選定プロセス及び設定レベルは妥当である。その一方、課題抽出の根拠や必要性、開発を目指す根拠等をより明確にすべき。
- 成果の積極的な情報発信、国民の理解促進活動は、これまで以上に積極的かつ効果的に進められることを期待する。
- 原子力機構全体の取組方針（イノベーション創出、国際連携、人材育成など）とも整合した課題が設定されている。

(2) 方向性・目的・目標等の妥当性（効果・効用（アウトカム）の観点を含む）

- 多角的視点に立ち、これまでの成果を発展させる方向性・目的・目標を定めており、基本的に妥当であるものの、それらが設定された根拠ならびに代替処分技術の今後の位置づけ・方針の明確化や、第 4 期中長期目標の目玉的な提示も必要と考える。
- 「2. 新たな研究システムとして将来を見据えた研究開発による、成果の他分野への展開」に係る成果は、国民の生活、他分野の研究に広く適用されることを期待する。また、ドローンなどを活用した坑道の遠隔観察・管理やデータ・資料取得などの取り組みにも期待する。
- 国民との相互理解は、着実に進めるべき重要な研究開発の方向性である。施設見学の受入れなど、国民の理解を促進する活動もこれまで以上に積極的かつ効果的に進められることを期待する。また、幌延深地層研究センターの国際拠点化を進め、国内外の研究者の交流を活発化させることは重要であり、できるだけ早く進めてほしい。

(3) その他

- 研究成果を伝える際に担当する研究者・技術者が見える工夫や対話がこれまで以上に重要である。
- デジタルツイン技術を取り入れた技術基盤整備は、地層処分研究開発において事前のシミュレーション・分析・最適化を行うことが可能であり大いに期待する。
- 最先端技術を活用し、「知の創造」を生み出す組織であることを若い世代に訴求し、今後も優秀な人材が原子力機構に集まってくるよう、組織全体のイメージアップにも活用してほしい。
- URL の活用は世界的にも貴重かつ有益であり、我が国が世界に貢献する成果を出せるよう期待する。

以上